

いわき民報 護る 製造一式 棒炭 機械 値段其他面談の上 開盛館 平市田町五電五七〇番

郡食糧對策委員會成る

二十八日に初委員會を開催 委員長に岡田地方事務所長

日増しに深刻化する現下の食糧危機を克服突破すると共に十月の端境期迄、如何にして食糧不足を克服するかの大きな問題とされてゐるが、これは農民の第一の同胞愛に訴へることが先づ第一の問題であるが、たゞ徒らに農家にのみ依存すべきではない、市民の一人一人が又郡民の一人一人が眞剣に考へ研究すべき問題でもあるとして、石城地方事務所では縣と國の方針に則り市民一致、生産者も消費者も打つて一丸としてこれに農組代表も加へて、食糧對策委員會を組織し、合理的供出の制當を始めるべく準備中である。この準備中であるが、先づ第一の専門委員會を設け、生産の増進、消費の節減、供給の確保、又岡田地方事務所長が兼ねる初委員會を二十八日午前十時から開催するに決定した。

生産専門委員會も 綜合委員會運營の圓滑化に

食糧對策委員會の運營を圓滑にその結果を對策委員會では取上り且強力たらしむるため、地方事務に於ては、更に専門委員會の組織も設け、この専門委員會の組織も設け、生産の増進、消費の節減、供給の確保、又岡田地方事務所長が兼ねる初委員會を二十八日午前十時から開催するに決定した。

大道異變

食糧危機 信號の旗を掲げてゐないが、各人の血管に、高々と電燈が叩かれてゐる。言葉で、又、文字で表現するに、余りにも痛切であり、嚴肅である。この危機突破のために、各學校とも、農繁休暇を與へ農家の子弟は勿論、非農家の子弟も或

生天目嘉一郎(上野野)高野正か催されたので代表として丹野男(平市日農代表、北白川源三(警中)三本杉(警女三森(第一)郎(警崎村)根本重平(赤井村)の委員を出席せしめた

赤塚直治(大浦村) 消費委員會 加藤木清一郎(常磐炭礦坑夫組合)渡邊勝治(常磐炭礦坑夫組合)田村金光(勿來大日本炭礦)緑川兼壽(勿來町食糧團)渡邊重三郎(植田町)羽尾伊太郎(小名濱町)加藤善三郎(江名町)四家富雄(豊岡町)長谷川長太郎(田村)庄美雄(錦町)島目信夫(内郷町)飛田清吉(好間村)

四倉支部 水不足が全般的の田植に 四倉支部では二十三日開始した農工工業學校及び七月二十八日、四倉及び大野、大浦の兩村の復興に對しては、父兄會關係から新入の促進運動中だが、二十一日の縣參事會で兩校共二十一

引揚聯盟 四倉町では平八百八十四萬圓、平商百三十三萬圓とある、尙平商の工費揚者警備隊支部を結成、引揚中二十萬圓は保險金、十萬圓は同胞の利益と便利をはかること町村長會の負擔、九萬圓は市の開閉することに二十五日決定、尙附屬集した、尙結成式は近日舉行する

關係團體の 連絡協議 委員會に備へて 石城地方事務所では二十五日午前十時から初の食糧對策委員會召集に當り、これが万全を期すため、町村長會議員、食糧、農會その他各關係團體との連絡準備その他についての下打合せ會を開き、協同打合せを遂げるところがあつた

單一組合結成 市から三委員出席 濱濱(飯野村)佐藤甚一(澤平市教員組合)は今度縣單一組合を結成することに決し、二十六日那山市芳山國民學校に結成大會

市民憩ひの場所へ 平土地住宅の第二工事計劃 昨夏七月の焼夷攻撃で類焼した場所として有意義に利用せしめ、今春の計劃でもあるとある

市内各中學校 農繁休暇延期 山間部を除いて市郡下の田植は水不足に悩まれて十日余現れ、このため市内各中學校では、遅延し農繁休暇を本月末日に決定した

濱通り運動 聯盟理事會 濱通りスポーツ聯盟第一回理事會は二十七日午前十時から常陽銀行支店樓上で開き、今後のスケジュールその他について協議する

保存許さぬ 年鑑類内容 聯合軍最高司令部の指令に依り保存を許されぬことになつた年鑑及び官報は左の通りに決定し、尙執行上必要なものは特に免除されることになつた

親和會の配給 湯本町戦災者親和會では去る二十四日局前の同會事務所で、その實情調査を基本に二人以上の家族に一點の割合で、左記三百四十一点を配給、感謝されてゐる、尙同町の現在戦災者は六百二十戸の千四百六十八人とある

富ヶ浦病院 院長 安田善一 電話三三三 内科 安田善一 小兒科 佐藤忍 眼科 簡井榮 産婦人科 下田林之助 咽喉科 師田むめ子 外科 下田林之助 皮膚科 下田林之助 泌尿器科 下田林之助 臨床試驗室 佐藤忍 藥劑士 依田美子

商友會員に急告 本年度商友會總會を左記により開催しますから万障御繰り合せ御出席下さ

福島縣立平商業學校 商友會長 比佐三郎

言寸きわい 救護會と救護を並べ替へる、終戦後の今日當然のこと、もつと早くやるべきであつた

